

デート・ウィズ・ドリュー

2008(平成20)年7月27日鑑賞(ホクテンザ2)



監督・製作・編集＝ブライアン・ハーズリンガー、ジョン・ガン、ブレット・ウィン／プロデューサー＝ケリー・デヴィット／出演＝ブライアン・ハーズリンガー／エリック・ロバーツ／コリー・フェルドマン／ドリュー・バリモア（エレファント・ピクチャー配給／2004年アメリカ映画／90分）

……クイズ番組で獲得した1100ドル（約12万円）で、憧れの女優ドリュー・バリモアとデート。そんな子供の頃からの夢の実現に向けた努力を、ドキュメンタリー映画にしたのはなぜ……？ そして、そんな映画がくだらない出来になっているのはなぜ……？ 時間のムダを厭わない方は、機会があれば是非1度映画館へ。

こんなくだらない映画が生まれたのは？

私が『デート・ウィズ・ドリュー』を観たのは、なぜか台湾映画の名作『藍色夏恋』（02年）がかかっていたので、それを再度観ようと思ったため。つまり、『藍色夏恋』と2本立てで『デート・ウィズ・ドリュー』が上映されていたためだ。

この映画を主演・監督・製作・編集したのはブライアン・ハーズリンガーだが、これは彼自身の「ドリュー・バリモア命！」の生き方をドキュメンタリー映画製作にそのままぶつけたもの。この映画のテーマは、クイズ番組で獲得した1100ドル（約12万円）の賞金をもとに、ドリュー・バリモアとのデートの実現を目指すというたわいもないものだが、そんなドキュメンタリー映画が完成できたのは、ジョン・ガンとブレット・ウィンがブライアンに協力して、監督・製作・編集に携わってくれたため。またケリー・デヴィットがブライアンに共感し、プロデューサーとして尽力してくれたため。しかし完成したこの映画の出来は……？

決して真似しないように……

ブライアンが結果的にドリュー・バリモアとデートできた最大の要因は、もちろん本人の熱意だが、現実を見ていると周りの友人たちの尽力のおかげであることは明らか。そのことをすばらしいと見るか、神輿の上で踊っただけと見るかは難しいところだが、ドリュー・バリモアとのデートの実現にだけ熱心で、真面目に生きていくことにあまり熱心さが見えないブライアンを見ていると、私には彼は単なるバカ、単なるおたくに見えてしまう。

たまたまデートに成功したから良かったものの、さまざまな違法ストレス行為はヘタするとストーカー行為として即逮捕される危険性もあるから、決してあなたは第2のブライアン、第3のブライアンを目指さないように。

賞金といっても、たった1100ドル！

出演したテレビのクイズ番組の最終回答が、たまたま自分の大好きな「ドリュー・バリモア」と答えるものだった。それによって、獲得した賞金が1100ドル。しががない時給生活でアップアップ状態のブライアンがその賞金の最有効活用法として考え出したのが、この金でドリュー・バリモアとのデートを実現し、かつドキュメンタリー映画をつくること。そこから始まったのが、1カ月以内に返品すれば全額が戻ってくる量販店の返品保障制度を利用することを友人に約束し、高性能ハンディカメラを買ってもらうこと。期間は30日。手持ち資金は1100ドルの賞金だけ。そして頼りは、自分の熱意と周りの友人たちの応援だけだ。さあ、ここからドリュー・バリモアにつながる脚本家、共演者などに対するブライアンの電話攻勢が始まることに。

ブライアンとその友人たちが立てた作戦のポイントは、第1にプレゼン用のDVDの作成。そして、第2は『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』へのプレミア潜入作戦。そのためには、明らかに違法な「偽造パス」の作成も必要……？ このように、賞金と言ってもたった1100ドルだから、できることは所詮知れてる……？

バカな奴ほどよくしゃべる？

根クラ人間より根アカ人間の方がマシだが、私は底抜けに明るくかつしゃべりっ放しの人間はバカに見えるから大嫌い。ところが、この映画の主人公ブライアンは、ま

さにそんなタイプ……？

常に前向きに生きる姿勢はいいのだが、少し展開がうまくいけば有頂天になって叫んでいるし、状況が厳しくなると大声をあげて自分にハッパかけをしている。また、車の運転中もやかましいし、電話は絶対手放せないし、カメラを意識したしゃべりもエンドレス。まさに「バカな奴ほどよくしゃべる」を地で行くようなブライアンにウンザリ。

今日のホクテンザ2は珍しく3分の1くらい客が入っていたが、途中で2、3人出ていったのは、ひょっとして私と同じような気分だったのかも……？

ジュリア・ロバーツの兄をはじめて観たが……

ジュリア・ロバーツといえば、今やハリウッドで1、2を争う大女優。しかして、エリック・ロバーツはその兄として有名らしいが、私がそんな彼を観たのはこの映画がはじめて。

パンフレットには、「映画『暴走機関車』(85年)でアカデミー賞助演男優賞にノミネートされた過去もあるが、その後人気が低迷し、出演作は、『ザ・チェイサー』(00年)等B級作品ばかり」と書かれていたが、こんなくだらない映画に出演している彼を見ると、「なるほど」と納得。やはり、俳優はいくらしんどくても、出る作品を選ばなくては……。

夢の実現は？

この映画はドキュメンタリーだから、夢が叶うかどうかは二の次で、夢を追っていく過程が大事。とはいっても、やはり結果が気になるのは人の常。しかして、ブライアンの夢の実現は……？

あえてネタバレしをすれば、それは本編では失敗だが、番外編で実現することに。現実に実現したブライアンとドリュー・バリモアとのデートは5分ほどのものだが、これはネット上でブライアンの企画を知り、「これは面白い！」と取りあげたマスコミにドリュー・バリモアが乗った結果実現したもの。たしかに、ブライアンにとってはそれは夢の実現だろうが、ドリュー・バリモアにとっては単なる5分間の宣伝イベント。そしてまた私の目には、ブライアンは何と望みの小さくくだらない奴、と思えてならなかったが……。

2008(平成20)年7月30日記